

# 5 耕作放棄地借受けによる規模拡大と農地集積

[つがる市 株式会社黄金崎農場]

## 1 農地集積への取組

- (1) 農場は経営規模拡大のため、岩木山麓高冷地に耕作放棄地を含め、まとまりがある農地を求めている。
- (2) しかし、複数の市町村にまたがる地権者を個別に交渉するのは難しく、また、放棄地は所有者不明や所有者の意向未定で交渉に難儀し借入れが容易でなかった。

## 2 農地中間管理事業利用のきっかけと着実な農地集積

- (1) 26年度にスタートした農地中間管理事業では、自ら所有者に交渉する必要はなく、市町村が出し手を探しマッチングし、契約手続きも機構とだけで済むとの説明を受け、事業活用を開始。
- (2) 地域の話し合いを通じ、「人・農地プラン」の中心的経営体となり、26、27年度の2か年で機構から41ha（耕作放棄地含む）を借受けし規模を拡大。

## 3 耕作放棄地再生は国事業を活用

耕作放棄地の再生は、多くを国の定額助成金を活用して行っている。再生事業は機構でも実施可能だが、再生後の導入作目や効率的な再生工事、自己所有の大型機械の有効活用などから農場自ら実施している。

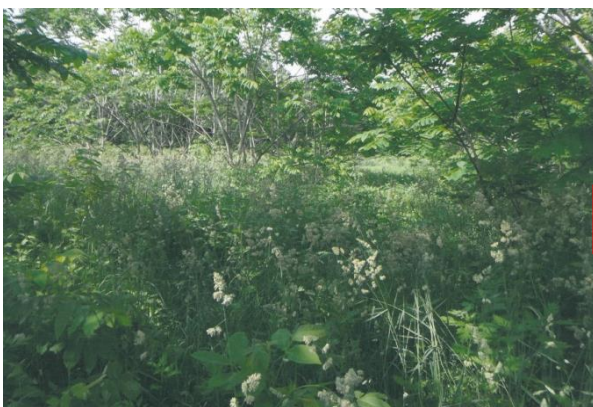
## 4 農場の耕作放棄地再生事業の利用面積

26年度	27年度	
1.2 ha	20.8 ha	うち、機構から借入れた面積18.0haのうち13.4haで事業利用

## 5 今後の取組

今後も農地中間管理事業を利用し、耕作放棄地の再生を進めながら、高冷地地帯の野菜作付けを拡大予定。

再生前の耕作放棄地



再生後

